

令和8年度 練馬区立上石神井小学校 学校経営計画

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、心身共に健康で、知性と感性に富み、広く国際社会において、信頼と尊敬が得られる人間性豊かな児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

思いやりのある

○やさしい子

○かしこい子

○たくましい子

2 目指す学校

児童一人一人が、友達や教師に認められ、大切にされ、日々、存在感・所属感・充実感を味わい、楽しく学習・生活することを通して、安心感や信頼感が醸成される学校を目指す。そのため全教職員が、学校像実現のために全力を傾注する。

また、自ら目標を設定し、諦めず挑戦し、学び続けることができる児童を育てる。

◎みんながワクワクする学校

○児童が毎日笑顔で通いたくなる学校

○保護者に信頼される学校

○地域社会に愛される学校

○教職員が誇りに思える学校

3 中期的経営目標と方策【令和8年度～令和12年度】

「練馬区教育・子育て大綱」、「練馬区教育振興基本計画」、「第二次みどりの風吹くまちビジョン・アクションプラン」に基づいて、本校の中期的目標と方策を示す

1 児童が楽しみながら学び、自ら学び続けることができる授業の創造

(1) 主体的・対話的で深い学びとなるための指導方法の工夫改善

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日々授業改善を図る。

(2) 児童の知性・徳性・感性を高めるための読書指導の充実

(3) 児童の体力向上を図るための取組の推進

・運動の楽しさやできる喜びを味わわせ、誰もが積極的に参加できる体育の授業を工夫し、授業以外でも体を動かすことを楽しめる児童を育成する。

2 信頼関係の形成を基盤とした心の通い合う温かい学校

(1) 人権尊重の視点に立った学年・学級経営

・厳しさと愛情をもち、「認め・励まし・褒める」指導を通して児童との信頼関係の構築を図る。

(2) いじめ・体罰への組織的な対応

・「いじめはしない、させない、見逃さない、許さない」という毅然とした態度で、全員で指導に臨む。

- ・「いじめは、どの学級でも起こりうるものである」という認識に立ち、早期発見・早期対応
- ・早期解決を図る。

(3) 学校の組織力の向上

- ・教職員相互の連携と、協力・協働体制を確立して、教職員の資質・能力の向上を図る。

(4) 開かれた学校づくりの推進

- ・年4回の学校公開等を実施する
- ・家庭や地域と連携した教育の推進
- ・小中一貫教育の推進

3 人間尊重・生命尊重の視点から推進する生活指導・進路指導

(1) 安全かつ安心感のある楽しい学校生活

- ・教員が共通認識、共通理解を図るための場を確保し、同じ視点から指導できる共通実践体制をつくる。

(2) 特別支援教育の充実

- ・特別支援教室の推進を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援体制を確立する。

4 令和8年度の達成目標と具体的方策

1 児童が楽しみながら学び、自ら学び続けることができる授業の創造

(1) 主体的・対話的で深い学びとなるための指導方法の工夫改善

- ・校内研究を通じた授業力向上。
- ・単元や単元時間の学習のめあてや学習の仕方・評価(振り返り)の方法は、教師が一方的に与えるものではなく、児童自らが設定できるよう工夫した授業づくりを行う。
- ・学習指導要領の評価の観点である「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」に基づいた指導と評価の一体化及び充実を図る。

(2) 児童の知性・徳性・感性を高めるための読書指導の充実

- ・読書環境の整備に努めるとともに、朝読書、PTAとも連携した読み聞かせや読書旬間等、読書活動の充実を図る。

(3) 児童の体力向上を図るための取組の推進

- ・縄跳び運動など、課外(休み時間等)の時間を活用した取組を実施する。
- ・休み時間は、外で元気よく遊ばせ、運動の日常化を図る。
- ・望ましい食習慣を身に付けさせるために、発達段階を考慮して、食育の推進を全教育活動において適切に行う。

(4) ICT機器を活用した学習指導の充実

- ・授業における児童のタブレットの積極的な活用
- ・校内研修を実施し、教員のスキル向上を図る。

2 信頼関係の形成を基盤とした心の通い合う温かい学校

(1) 人権尊重の視点に立った学年・学級経営

- ・厳しさと愛情をもち、「認め・励まし・褒める」指導を通して児童との信頼関係の構築を図る。
- ・児童一人一人が存在感、所属感、充実感を持ち、自尊感情や自己肯定感を育む学級を築く。
- ・「人権教育プログラム」の「見直してみよう あなたの人権感覚」「人権感覚 教職員のチェックポイント」等を活用し、絶えず人権感覚を見直す姿勢を全教員がもつ。

(2) 「思いやりのある」学級・学年づくり

- ・創意工夫しながら受容と共感など肯定感あふれ温かみのある学級・学年経営を進め、児童の思いやりの心や折り合う力を培い、協力し合う児童を育成する。
- (3) 心豊かな児童の育成、いじめ等のない学校
- ・日頃から児童同士の間関係に配慮した経営をすすめ、いじめ等を敏感に察知することに努める。
 - ・いじめや不登校・問題行動等は、教員が一人で抱え込まないようにし、組織的に対応する。
 - ・児童の友人関係の実態を把握し、いじめは「しない、させない、見逃さない、許さない」という毅然とした態度で指導に臨む。
- (4) 道徳教育及び「特別の教科 道徳」の指導の充実
- ・道徳教育全体計画や各教科等の年間指導計画を活用し、全教育活動を通して、道徳教育を推進する。
 - ・「特別の教科 道徳」は、教科書の指導計画に基づくとともに、適宜、練馬区資料を活用しながら、「考え、議論する道徳」の授業を推進する。
 - ・全教育活動で外部人材の活用、体験的な活動を推進し、道徳教育の充実を図る。
- (5) 約束やルールを守る心の育成
- ・「上石神井小学校の約束」など指導すべき基本的生活習慣（挨拶、返事、片付け、言葉遣い、廊下歩行、感謝の心）の共通理解、確認・実践を徹底する。
 - ・時間を守ること、正しい言葉遣いをする、礼儀正しくすること。
 - ・児童の安全を確保するために、素早い整列ができるようにする。

3 人間尊重・生命尊重の視点から推進する生活指導・進路指導

- (1) 安全かつ安心感のある楽しい学校生活
- ・学級担任等とスクールカウンセラーや心のふれあい相談員との連携を強化する。
 - ・安全指導、避難訓練、セーフティ教室等を計画的に行い、不審者、侵入者対応等安全の確保に努める。
 - ・来校者に対しては教職員全てが挨拶、声かけに努め、安全対策の徹底を図る。
- (2) キャリア教育の推進
- ・自分の良さや可能性に気付かせ、夢や希望を抱かせるキャリア教育を推進し、勤労観の育成を図る。
- (3) 特別支援教育の充実
- ・特別支援教室の推進を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援体制を確立する。
 - ・毎月の特別支援教育校内委員会や生活指導部会及び特別支援教室教員や特別支援教室専門員、特別支援教育コーディネーター及び学級担任等で特別に支援が必要な児童について情報交換を行い個に応じた支援を図る。
- (4) 教室等の環境整備
- ・創意、新鮮、変化に富み、言語環境の整った教室環境の整備に努め、児童の陶冶に資する。
 - ・美しい心は美しい環境の下で育つ。児童と教師が共に清掃に励み、整理整頓に努め、徹底を図る。
 - ・教科指導等との関連や上石神井小しぜん探検隊との連携を図りながら自然があふれる学校づくりを進める。

4 開かれた学校づくりの推進

- (1) 学校だより、ホームページ等を活用した、積極的な情報発信
- (2) 学校評議員会の活用、学校評価（自己評価、関係者評価）の公開の充実

- ・学校運営協議会設置に向け、学校評議員会等で、説明を行い、地域や学校の実態に応じた学校運営協議会について、検討する。2年後の学校運営協議会設立を目指す。
- ・家庭および地域社会に信頼される、開かれた学校づくりの推進

(3) 小中一貫教育の推進

- ・上石神井中学校とリトルティチャーや小中合同「あいさつ運動」等、児童・生徒の交流活動を実施することや小・中教員による相互授業見学の継続、充実を図る。
- ・「あじみこし」(挨拶、時間を守る、身なり、言葉づかい、姿勢)を中心に上石神井中学校と一体的に生活指導を行う。
- ・小中一貫教育の推進を図ることを通して、「目指す15歳の姿」を見据え、教育課題の改善や教育活動の充実を図る。

5 教職員の資質向上と学校における働き方改革の推進

(1) 教職員の資質向上に向けて

- ・居心地のよい職員室こそが、子どもにとってよい教育活動につながる。居心地のよい職員室とは、風通しがよく、子どものよいことが話題になり、笑いの絶えない空間。互いに認め合い、高め合う教職員集団をめざす。

(2) サービスの厳正(法令等に従い、サービス上の義務を遵守)

- ・プロ教師・教育公務員としての自覚
- ・「サービス事故ゼロ」を合い言葉にする。勤務の内外を問わず、個人情報管理、体罰、セクハラ、信用失墜行為、性暴力等を起こさない。そして、学校及び教職員に対する社会からの厳しい評価を常に意識しながら職務に精励する。重点目標は「体罰・暴言ゼロ」とする。

(3) 教員の働き方改革に向けて

- ・教員のライフワークバランスについて、意識改革と環境整備を図る。定時退勤を促すとともに、超過勤務時間を意識した働き方を推進する。
- ・先を見通す意識をもち、「何を」「いつまでに」「どのように」するかを明確にし、仕事を効率よく進めさせる。時間を守ることを大切にする。
- ・ICTを活用した校務軽減を図る。

(4) チーム学年担任制

- ・副担任を含め、学年の教員が全クラスの担任として対応する。学年担任として様々な場面で対応する。